

## 「現地メディア向けプレスツアーを行いました」

9月18日から20日、現地メディア向けプレスツアーを実施し、新聞・テレビ11社15名のジャーナリストとカメラマンが参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やすとともに、スリランカの政府関係者、知識層およびスリランカ国民への情報発信を強化するためのものです。

### 1日目の様子

最初は有償資金協力「地方基礎社会サービス改善事業」によって建設されたワラカポラ病院の視察です。昨年完成したばかりの真新しい施設により、病院の機能は大幅に改善し、高まる地域の医療ニーズにこたえることができたことと病院関係者は誇らしげに語っていました。病院側の熱烈的な歓迎ぶりと熱心な説明を受け、ジャーナリストの取材にも熱が入っていました。



ワラカポラ病院関係者へのインタビュー

続いて、有償資金協力「キャンディ上水道整備計画」にて整備されたカツガスタ浄水場を視察。2006年の運用開始以降、スリランカ第二の都市キャンディの水需要を支え続けています。所長は「設備に不具合はほとんどない。日本は大変良い仕事をしてくれた。」と高く評価していました。



キャンディ浄水場施設の視察

キャンディ市内の学校に移動した一行は、キャンディ周辺で JICA ボランティアとして活動する八木隊員取材しました。八木隊員は地域の少年や大学生、社会人に野球を指導しており、最近スリランカのナショナルチームの指導にも携わったそうです。シンハラ語で指示する八木隊員にてきぱきと従う少年たちの様子から、コーチへの厚い信頼が窺えました。取材陣一行もキャッチボールに参加し、とても楽しい取材となりました。



八木隊員へのインタビュー

その後、小岩金網株式会社と日特建設株式会社の技術による「斜面防災技術(ユニット式金網型枠による吹付法砕工)の普及・実証事業」の対象地を視察。スリランカでは豪雨による地滑りが頻発しており、その防止は喫緊の課題となっています。この現場では、急勾配の斜面の上に看護学校が、下に道路とグラウンドがあります。もし地すべりが発生すれば大きな被害は免れず、日本の技術にかかる期待が感じられました。日本では一般的な法砕工はスリランカでは珍しく、メディアの皆さんは興味深く取材していました。



吹付法砕工が施された斜面を見下ろす一行

## 2日目の様子

キャンディからバティカロアに移動しつつ、2つの事業を視察しました。

1つめは、キャンディ郊外にあるコンポストプラントの視察です。これは「スクリー型コンポストプラントによる有機性廃棄物・農業廃棄物のリサイクルに関する普及・実証事業」にて株式会社カワシマの技術提供により建設されました。スリランカではあらゆるごみを無造作に積んだだけのごみ山が各地に点在し深刻な社会問題となっています。このプラントでは、生ゴミが効率的に発酵されコンポストに変わっていく工程を見ることができ、このように管理の行き届いた廃棄物処分場はスリランカ人には新鮮に映ったようです。



コンポストプラントの説明を聞く一行

2つめは、バティカロア郊外にあるマハオヤ浄水場です。これは有償資金協力「東部州給水開発計画」で2016年に建設されたもので、紛争の影響がいまだに残り、開発が遅れる東部州の人々の生活を支える重要な施設です。この給水施設ができるまで、人々は汚染された井戸水を飲むか、遠くの水源地まで水を汲みに行っていたとのこと。近年は干ばつによる影響も深刻化しており、給水施設の重要性はますます高まっています。



マハオヤ浄水場の視察

### 3日目の様子

無償資金協力「マンムナイ橋梁建設計画」にて、バティカロアラグーンに建設された、マンムナイ橋を視察しました。2014年にこの橋が建設されるまで、地域の人々がラグーンの東西を往来するためには、渡し船で対岸に渡るか、あるいは迂回しなければなりませんでした。ラグーンと橋が織りなす景観が素晴らしく、メディアの皆さんは視察を終えた後も記念撮影を楽しんでいました。



マンムナイ橋の視察

最後に、バティカロア市役所にて JICA ボランティアとして環境教育に携わる、和田隊員の活動を視察しました。この日は女学校での講演の日で、和田隊員は流暢なタミル語を操り、模型やパソコンのスライドを使いながら、ごみの分別やコンポストの作り方などを非常にわかりやすく、かつ楽しく説明されていました。その後バティカロア市長にもお会いし、バティカロア市のごみ問題やそれに取り組む和田隊員の活躍ぶりについて話を伺いました。



和田隊員による講演

プレスツアー後、各紙・テレビでは次々と我が国開発協力の取組が報道されました。多くの庶民が目にする新聞各紙で開発協力事業が取り上げられることで、スリランカ国民の我が国開発協力事業への理解もより一層深まったのではないかと思います。